

環境協定締結事業所におけるこの1年間の取組みの成果

事業所名 福井県民生活協同組合
代表者 理事長 松宮 幹雄
所在地 福井市開発5丁目1603番地
協定期間 令和2年11月1日～令和3年10月31日
(初回締結日 平成19年11月1日)

1 取組み内容と成果

- (1) 「温室効果ガス削減計画2030」を見直し、2030年までに2013年対比50%削減とするよう、目標値を上方修正しました。再エネ導入については、これまでに太陽光で16カ所2,358kWの導入を行い、自然エネルギー発電の普及に取り組みました。
- (2) 敦賀市内において、2024年運転開始に向けて小水力発電事業を進めていくことを確認しました。
規模：490kW（一般家庭約760世帯分の電気を賄うことが可能）
- (3) 店舗ハーツの古紙や廃食油の回収拠点「リサイクルステーション」では、2020年度に古紙1,291t、廃食油12tを回収しました。また、紙・プラスチックのリサイクルの拠点「エコセンター」では、2,691tのリサイクル品の一次加工を行い、地域の資源循環の拠点の役割を果たしました。
- (4) 6月と10月をエシカル消費普及月間と定め、6月は環境、10月は社会貢献商品を中心にエシカル消費の普及活動を行いました。RSPO（持続可能なパーム油）の認証を得たコープヌードルの販売など、身近な商品のエシカル商品化を進めました。
- (5) 毎月発行している情報誌「がんばらにゃ」で、「LOVE・アース・ふくい2030」の毎月のチャレンジ目標の掲載を行いました。また、クールシェアスポットとして、ハーツ10店舗で展開するなど、県の取り組みへの協力を継続しました。

- (6) フードバンクは、県の委託事業を新たに受託して他の事業者と連携しながら取り組みを行い、5事業者15事業所から11,437点の支援を提供することができました。フードドライブは、年3回、ハーツ10店舗と介護施設きらめき2拠点において生協組合員に呼びかけを実施し、全体で4,243点が集まり、社会福祉協議会や子ども食堂など、延べ27団体に提供しました。
- (7) プラスチック削減を目的に、ラベルレスのペットボトル商品の取り組みを推進し、麦茶や飲料水等での展開を進めました。また、井の容器のバガス化（サトウキビの非可食部を使用した食品容器）やストローの紙製品化、スプーンやフォークの希望者以外への配布を中止するなど、プラスチック削減に向けた取り組みを進めました。

2 活動の取組み事例



自社施設屋上への太陽光発電設備の導入



敦賀市内での小水力発電施設（完成イメージ）



エコチャレ広報番組「エコむすび」でのエシカル商品の紹介



クールシェアスポットの掲示案内



フードドライブの様子



ラベルレスペットボトルの販売